奈良女子大学　国際交流センター News Letter　特別版
平成27年度グローバル女性人材養成プログラム（ニュージーランド）　特集
2015年8月25日にリンカーン大学は本学の海外協定校となりました♪

The IEC Times

Special Edition　Report on the Spring Program at Lincoln University, New Zealand!

NARA, 11 July 2016

2016年2月19日から3月18日までの１ヶ月間、ニュージーランド南島中部クライストチャーチ市にあるリンカーン大学で短期海外研修を実施しました。本年度は、19名の学生が参加しました。１ヵ月の研修を経て、学習成果・海外での経験・プログラムの内容・今後の進路への影響など学生の声を集めました。

ENGLISH LESSONS　学習成果

最も大きな変化は、英語を話すことに対する自分の姿勢です。失敗を恐れて黙りがちになったり、相手が先に話してくれることで自分の意図をくみ取ってくれるのをひたすら待ったりしていては、英会話を練習するせっかくの機会を逃してしまうと考え、つたない表現になってしまう中でも、自分の英語で意志を伝える努力ができるようになったのではないかと思います。日本に帰国してから、駅で観光客に英語で電車について尋ねられた際、以前よりスムーズに答えることができて、達成感を感じました。

毎日一緒に過ごし、話をしているうちに、そのネイティヴの会話の速さにも慣れ、だんだんとジョークの内容も聞き取れるようになってきているのを体感し、英語を聞き取ることができるようになると本当に会話が楽しいと思いました。ホストファミリー間での会話だけでなく、大学内でも同じです。先生の話している内容を徐々に理解できるようになってきていることが自分自身で分かりました。そして、たとえ、言いたい英単語が頭に思い浮かばなくても、すぐに辞書に頼るのではなく、違う表現の仕方でどうにかして伝えようと努力をしました。その為、英語を聞き取る力だけでなく、話す力も大きく向上したと思います。

大学での授業は、基礎からしっかりと学べたのでとても良かったと思います。少人数のクラスだったため、一人ひとり発言することが重要でした。自分が言いたいことをうまく英語で表現できないときでも、クラスメイトや先生がフォローしてくれました。一つの文章でも少し発想を変えることで様々な表現ができることは英語を勉強するうえで大切なことだと思いました。

書き方を丁寧に一から教えてくれ、宿題１つ１つを先生が添削してくださるので、すぐに良くないところを改善でき、今では英語でレポートをスラスラ書くことができるようになりました。

留学によって自身の英語に対する意識と実際の能力は上がったように感じる。その要因となったものは三つある。まず、周りの人々とのコミュニケーション手段が英語しかなかった点があげられる。毎日英語を話さなくてはならないという環境が自分で伝えねばならないという意識を高め、結果として英語に自然になれることができ、特にリスニング能力が上がった。次に、EAPでの授業があげられる。授業内ではもちろん英語しか使われず、内容を理解するためにも集中する必要があった。また、質問やグループワークも英語で行われるため、英語を使うという意識が高まった。最後に、EAPでの宿題があげられる。宿題の多くは英語で長文・レポートを書くものであり、日常生活の会話や授業ではしっかりとカバーしきれない文法に関しての能力を高めることに役立った。このように、一つの面のみではなく、さまざまな面でバランス良く英語の能力や意識を高めることができたという成果があった。

平日に語学学校で学ぶ期間は自分の意見を求められる場面が多く、中国やイタリアの方たちとコミュニケーションをとることができお互いの国の話や言葉を勉強するきっかけにもなりました。また、何度も聞き返しているうちに相手の話していることが少しずつですが理解できるようになりました。全ての単語や言葉が理解できなくとも相手が伝えたいことがなんとなく分かるようになったことが今回の研修を通して成長できた部分だと思います。また人によっては分からない単語がある事を伝えるとその単語について別の言い方や例をあげて説明してくれたので常に英語と触れあうことができました。

2015年8月25日にリンカーン大学は本学の海外協定校となりました♪

海外での経験について

EAPコースには、中国人、韓国人、タイ人、イタリア人など様々な国から来た学生がいて、学生という対等な立場で話すことができたのが新鮮でした。特に中国人の学生が多く、週末に仲良くなった中国人の学生と街まで出かけるなどして英語で会話をすることができました。また、ジャパンデーでワーキングホリーデー中の同い年のドイツ人と出会い、帰国後もSNSで交流を続けているなど、滞在中に外国人の友達がたくさんできたことが何より嬉しかったです。外国の友達を持つことで、外国のニュースが身近に感じるようになり、海外が近くなった気がします。

わたしは外国に行ったことが一度もなく、日本の中で生きてきたので、そこから出て新しい場所に飛び込むというのはとても新鮮でした。自分の持っている価値観とは違う生活に戸惑い、慣れないこともあったけれど、それでもまず受け入れてみようという精神が出来たことは本当に良かったと思います。ニュージーランドでの生活は日本に比べて朝に早かったり、バス停がなかったり、夜が長かったり、毎日触れるものが新しく毎日わくわくして過ごせました。

ホームステイ先は、おばあさんとおじいさんの二人家族のお家だったのですが、最高でした。毎日のご飯は美味しかったですし、ホストマザーもファザーも本当にいい人たちです。私の片言で文法も怪しい英語を、しっかりと目を合わせて、真剣に聞いてくれましたし、私が理解できるようにゆっくりと比較的優しい英語で話しかけてくれました。また、彼らには息子が３人いるのですが、「女の子が欲しかったの。」と言って、本当の娘のように可愛がってくれました。たった１か月という短い期間でしたが、血が繋がっていなくても、国籍が違っても、家族のようになれるのだ、と胸がいっぱいになりました。

ニュージーランドで感じたことは治安が良く皆優しく温かいということです。バスのアナウンスがなく、草原や住宅地ばかりという道がわかりにくい環境で、道に迷うこともしばしばありましたが、庭先で作業している人やバスの運転手に尋ねると、例外なく皆丁寧に説明をしてくれて本当に助かりました。また、ホストファミリーは旅立ちの時に「ここがあなたの家だからいつでも帰っておいで。あなたは家族の一人だから。」という言葉をかけてくれて心の温かさを感じ、思わず涙がこぼれました。ニュージーランドでは、皆が教師と生徒などという上下関係にかかわらず、ファーストネームで呼び合い、いつもフレンドリーでした。アジア系の人が大学や町で多く見かけられましたが、様々な文化を寛容に受け入れそれを楽しんでいる姿が印象的でした。

「郷に入れば郷に従え」とも言いますが、それによってこの留学を十二分に楽しむことができたと感じています。それらの相違点を見つけて「やりにくい」と決めつけるのではなく、「こういうやり方もおもしろいなあ」と前向きに捉えることで、差異を自分にとって新しい文化として楽しむことができました。

ホームステイでは文化の違いを強く感じた。私がホームステイしたのは、ご夫婦とお子さんが3人の家庭だった。土曜日の午前は子供がスポーツをする日で、家族みんなで観戦し、その後、どこかに出かけたり、親戚に会ったりするのだ。家族でいる時間をとても大切にしているように感じた。子供のスポーツの習い事を、当たり前のように、どの家族も家族みんなで観戦していることに驚いた。また、食事の文化も大きく異なっていた。朝食はそれぞれが好きな物を好きな時に食べ、昼食はフルーツやスナック菓子が多いということにも驚いた。外食をしても、日本との違いがたくさんあった。日本にいると、日本の文化に馴染み、日本文化が正しいように感じてしまうが、海外に行き、自分が少数派となることで、文化に良し悪しはないと感じた。文化は自分たちのアイデンティティを形成していると感じた。また、自分の意見を主張することの大切さを感じた。

ホームステイ体験は、ニュージーランドの文化を知るだけではなく、改めて日本の文化を見つめなおすきっかけにもなると同時に、渡航前と異なり未知の文化に対して、物怖じせず踏み込んでいけるようになるという気持ちの変化を私にもたらしてくれた。

授業では全員が積極的に発言する姿にとても最初驚きました。日本人は謙虚さを大切にするけれど、謙虚でいても海外では誰にも相手にしてもらえないことに気が付かされました。この研修期間中は、授業中やその他の場面で、積極的に自分の考えを言うように心がけることにしました。しかし、英語力の足りなさで意見を思い通りに表現するのは難しかったです。この経験で私が今まで正しいと思っていた日本人の価値観は海外では通用しないこともあると知りました。世界にはいろいろな考え方がありどれが正しいかは決められることではないということを学びました。

ニュージーランドのバスにはバス停のアナウンスがありません。自分の降りるバス停の目印を見つけて降車ボタンを押さなければならないので、はじめバスに乗るときはずっと外を見まわしてドキドキしながら乗っていました。またバスに乗るとき、バスの運転手は「Hi!」と声をかけてくれ、バスを降りるとき乗客は運転手に向かって「Thank you」と言います。日本では見ない光景だったので驚きましたが、とても雰囲気が良いと思いました。このような違いを体験して自分が当たり前だと思っていることも海外へ行けばその当たり前が通じなくなるので自分の考える常識にとらわれる

派遣プログラムについて

カンタベリージャパンデーで現地に住むたくさんの日本人と交流することができました。また、英語の授業だけではなく大学のクラブ活動のイベントや留学生が多く集まるイベントに参加しました。その中ではアジア圏だけではなくアメリカやアフリカなど世界のあらゆる地域の人と交流と交流できました。日本ではここまでグローバルな状況を体験することはできないと思います。

特別プログラムで現地のことを学ぶ機会がありました。異なる文化を学ぶことで、視野を広く持つことの面白さを学びました。授業の内容はもちろんですが、中国や韓国出身のクラスメイトから学ぶことも多くありました。彼らは、趣味の話や日本の文化など好きなことなどを積極的に話してくれました。彼らのおかげで、積極的に話しかけることの大切さがわかり、それを活かしてステイ先の家族との会話も楽しめるようになりました。積極的に取り組むことで、交流の幅も広がり自分自身も成長できました。

この留学で独特なのは、カンタベリージャパンデーという行事に奈良女子大学として出展する側で参加することだと思います。私のいたグループでは日本のお弁当を作る体験をして貰おうということで前々から準備を進めていました。当日はニュージーランドに在住している日本人が集まり、その多さにとても驚きました。そして他の国の人もたくさんいて、私たちのブースにも多くの方が訪れました。どのように呼び込みをするか、紙粘土で作った具をどの様に説明するか、実際にやってみるとなかなか伝わらないことも多くありましたが、地元の方々と触れ合えたことはとても良い経験になりました。また前日準備では主に日本の方々と会場の装飾や設営をしましたが、準備の合間に、なぜニュージーランドに来たのかなど将来の進路の参考になるお話を聞くことが出来ました。ただ留学生がまとまって英語を学ぶだけでなく、現地の人と話す機会がある点で、この留学はとても意味があるものだと思いました。

EAPのプログラムに参加することで、英語圏以外の人と友達になり、コミュニケーションをとることができたことが良かった。同じ教室で授業を受け、お互いに高め合っていくことができた。お互いの文化や言語の共通点や相違点などについて話すことができ、大変興味深かった。

ＲＳという授業では、一人でレポートを完成させることが目標でした。資料集めから英語でのレポートの書き方、パラフレーズなどいろんな知識を学んでレポートの形を作ることが出来ました。これからレポートを書く時の基盤としていきたいです。

ジャパンデーでは、たくさん現地の日本人に会い海外で生きていく選択もあるのだと思わせてくれました。家に帰ると、ホストファミリーと何気ない時間を過ごし、木、金曜日の午後はクライストチャーチのいろんなところに出かけたり、買い物したりして、街の魅力を感じることができました。週末もホストファミリーや友人と日本では行けないようなところに行くなど貴重な体験をしました。

2015年8月25日にリンカーン大学は本学の海外協定校となりました♪

今後の進路への影響

ニュージーランドに行くまでは、サークル、留学、旅行、ボランティア、アルバイトなど在学中にできるだけのことを経験して、社会に出た時に役に立てばいいと考え、たくさんのことをしなければと焦っていた。しかし、自分の本当にやりたいことを見失って、ただ色んなことをするだけでは苦しくなるだけなのかもしれないと思った。日本で多くの人がしていることが、必ずしも自分のやるべきことではなく、自分に合ったことを自分の時機でやっていくことが大切なのだと感じました。

この研修を通して海外と日本の懸け橋になれるような仕事がしたいと思うようになりました。今回、私はホストファミリーや大学の先生等本当に良い方に恵まれ不自由なく過ごすことができましたが、中には環境や人、食事が合わず、ストレスを感じてしまっていた人もいたようです。旅行ツアー会社や留学生のメンタル面のサポートなどという人と人とをつなぐ仕事がしてみたいです。

海外で人とのコミュニケーション力を活かせる職業に就きたいと思うようになりました。そのために、英語や中国語を勉強し、語学力をさらに深めていきたいです。そして、世界のニュースに関心を持ち、グローバルな視点を持つことを意識して過ごしていきたいと思います。

この留学を経て、他の国に行くことに以前より前向きになりました。この1か月はとても濃密で新鮮なことばかりで、私にとって最高の留学でした。これからも色々な国に行って、文化を知り、現地の人と触れ合い、さらに見聞を広めたいという思いがあります。また語学能力の向上という点では、1か月の留学ではとても足りず、長期留学も自分にとってより有意義なものになるだろうと思います。

今回留学に行ったことで、英語の面白さをより知り、英語で会話をすること、また英文を読むことに対する抵抗がなくなりました。私は、来年度から英語の論文を読む機会が増えると思いますが、ニュージーランドで通ったリンカーン大学で英文を読む機会が多かったため、それに関して抵抗はありません。また、留学を経験するまでは海外で働くことに大きな抵抗があり、海外での就職をしたいと一度も思ったことはありませんでしたが、今回経験をすることで、海外で就職をするという道も良いと思えるようになりました。そのため、私の将来の道を広げたこの留学は、私に大きく影響を与えた留学でした。

Reflections

留学で得たものとして、ニュージーランドの学生とのかかわりを挙げる。まず、自然保護に興味があり、それを専攻している学生と話す機会があったのだが、彼は幼いころからそれについて興味を持ち、大学以外での活動にもよく参加しているようであった。また、他の学生で日本に興味を持っている学生がいたのであるが、彼の専攻は日本語ではないのもかかわらず、日本について多くのことを学ぼうとしており、その機会を自身で得ている点がまた日本人と異なると感じた。日本人の中で、これらの学生のように自ら学ぶ機会を得ている学生は少ないように思う。文化の違いではあると思うが、大学までの教育の中でそういった姿勢が作られていったように感じた。そのため、日本の教育もこれらのことができるようなものに変えるべきだと強くかんじた。このように、現地の学生との交流によって英語学習以外のことも学ぶことができた。

ニュージーランドでは、食に対してはとても準備がしっかりしていて明日の分のチョコケーキを焼いたり明日の夕食(ラザニア)の準備をしたりしていました。毎日の食事をとても楽しみにしているようでした。また肉や乳製品がとてもおいしくて日本ではそんなに買えないバターをたくさん食べることが出来ました。家庭菜園も充実していて、食べることに関してこだわりがあるように感じました。また、外を見れば、ランニングしている人がとても多く、ジムやスポーツパークも多くあり、健康意識が高いと思いました。一階建ての家が多く理由を聞くと、敷地が広いのと地震に備えてという理由でした。一階建てであるから景色が壮大に見えて、ニュージーランドの自然に合っていて素晴らしいと思いました。

奈良女子大学国際交流センターNewsletter 特別版
2016年7月発行　奈良女子大学国際交流センター
〒630-8506奈良市北魚屋東町
TEL:0742-20-3736　Email: iec@cc.nara-wu.ac.jp
**平成27年度グローバル女性人材養成プログラムは、日本学生支援機構「海外留学支援制度(短期派遣)」採択事業です。